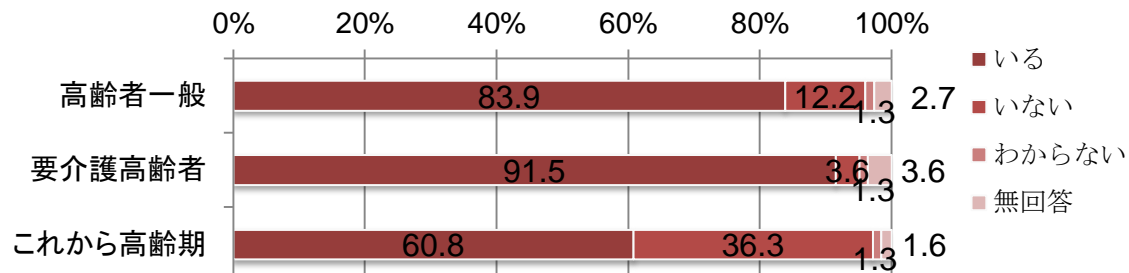


練馬区高齢者基礎調査報告書（速報）抜粋

1 かかりつけ医等の状況（P40）

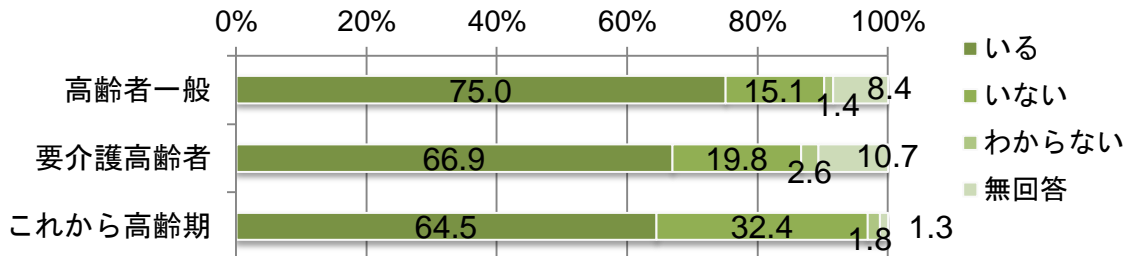
① かかりつけ医の有無

「いる」は高齢者一般で83.9%、これから高齢期では60.8%であった。



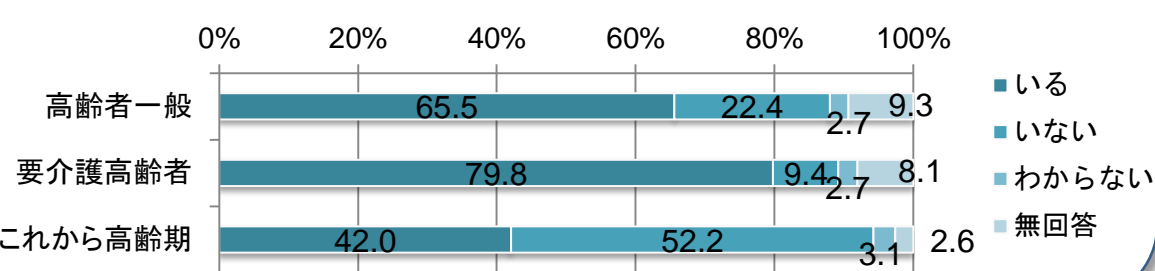
② かかりつけ歯科医師の有無

「いる」は高齢者一般で75.0%、要介護認定者が66.9%であった。



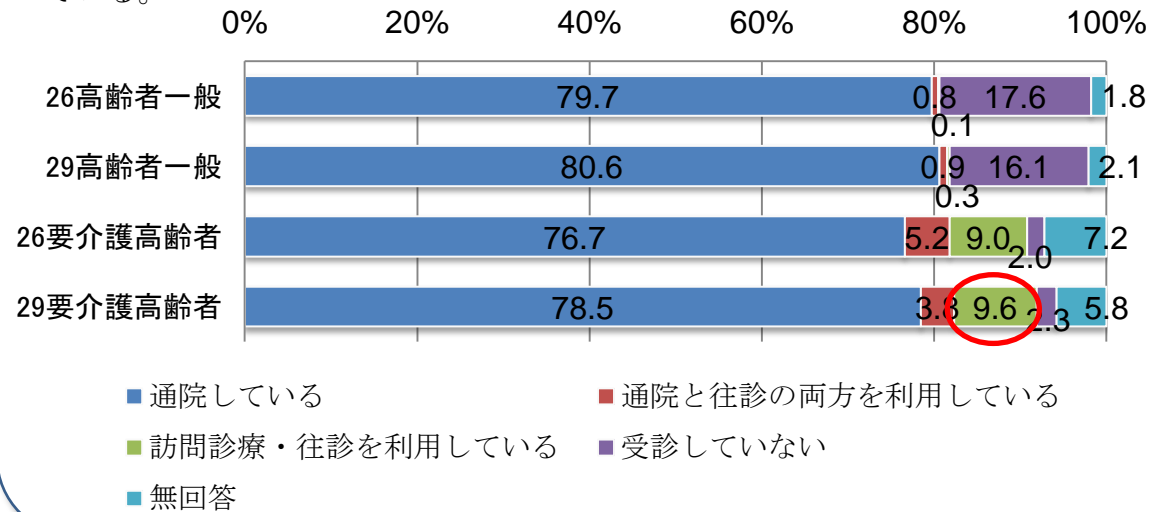
③ かかりつけ薬局の有無

「いる」は高齢者一般で65.5%、要介護認定者が79.8%であった。



2 医療の受診形態（P41）

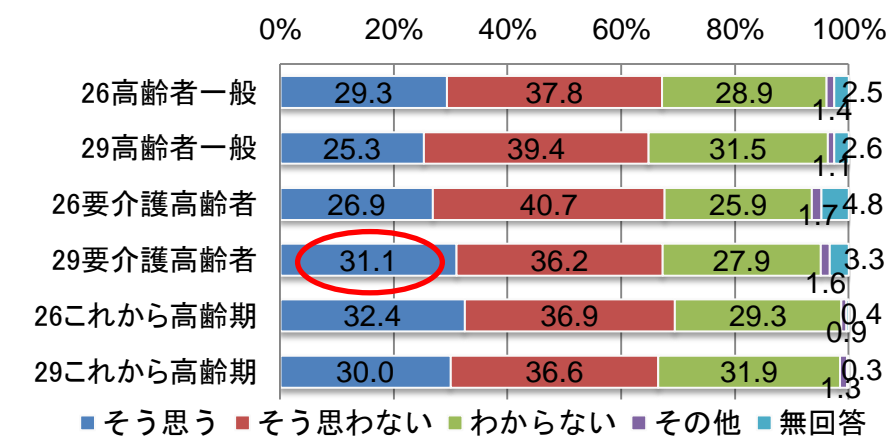
前回調査（平成26年）に比べ、要介護者の訪問診療が0.6ポイント増えている。



3 在宅療養（前回比較）

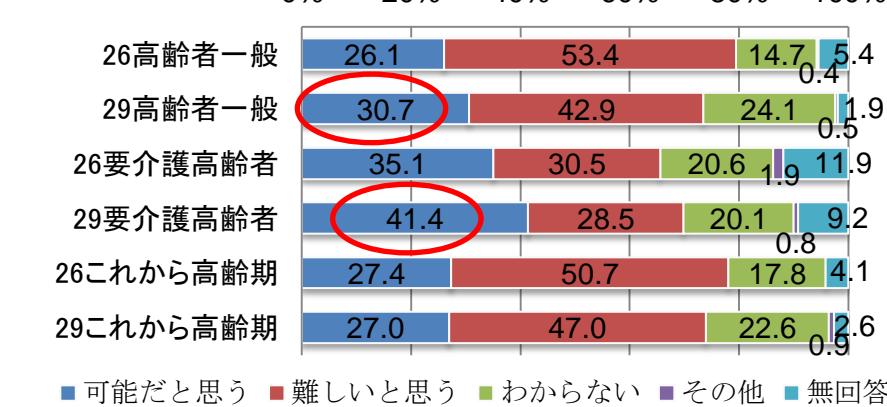
① 在宅療養の希望（P42）

前回調査に比べ在宅療養を希望する要介護高齢者が4.2ポイント増加している。



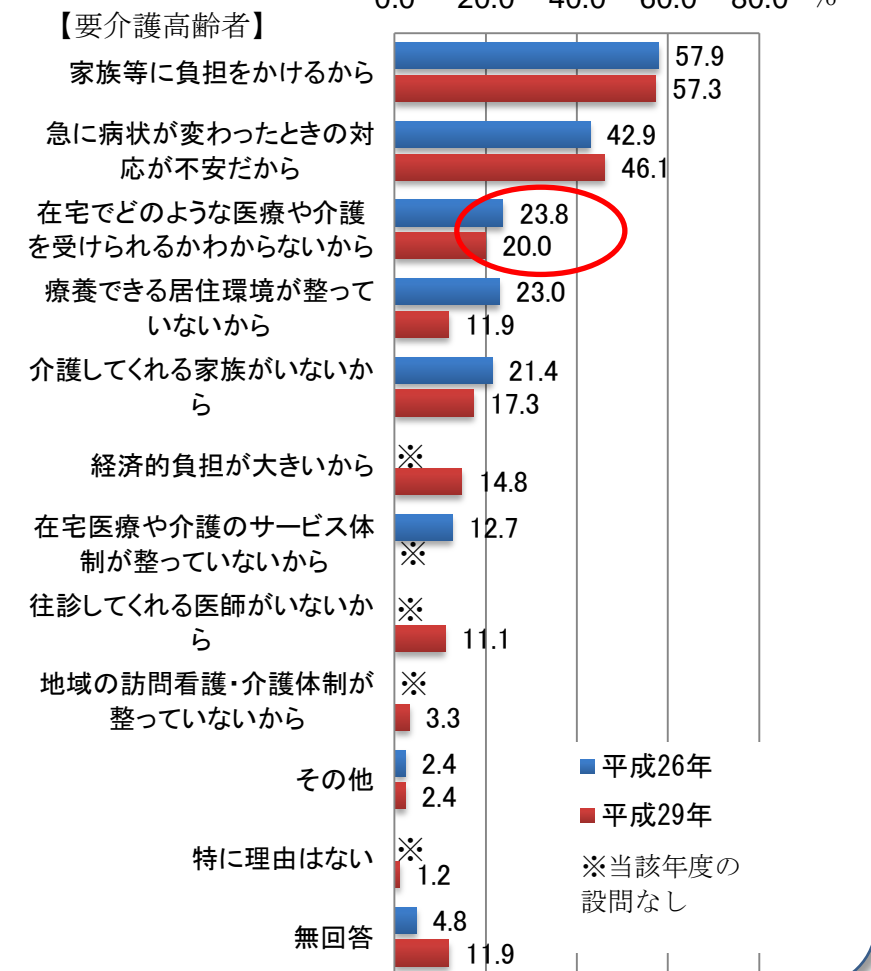
② 在宅療養の実現可能性（P43）

在宅療養を希望すると回答した人の実現可能性については高齢者一般で4.6ポイント、要介護高齢者で6.3ポイント増加している。



③ 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）（P43）

在宅療養を希望しない理由として、「家族への負担」が最も多く、次いで「急変時の対応への不安」であった。また、今回調査で新設した「経済的負担感」、「訪問診療医がない」が1割を超えていた。

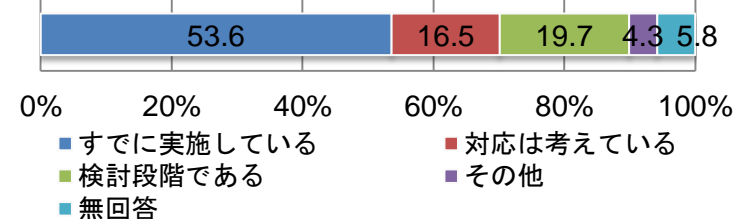


介護サービス事業者調査

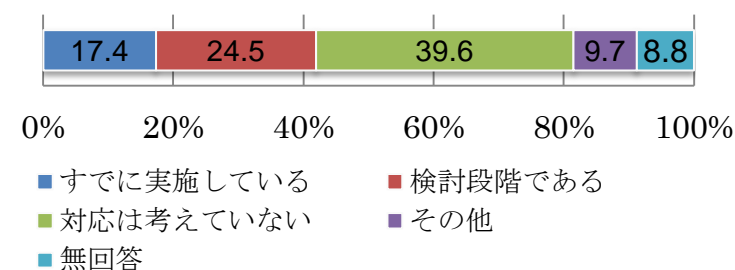
1 ターミナルケアへの対応（P162）

ターミナルのケアへの対応は53.6%がすでに実施している。たん吸引等は39.6%の事業者が対応は考えていないと回答している。

① ターミナルケアへの対応



② 介護職員によるたんの吸引等医療的ケアへの対応



2 医療機関との連携（P163）

① 医療機関と連携を進める上での課題（複数回答）

半数の事業者が情報共有システムの確立が必要と答えているが、2割以上の事業者が連携のための事務に負担を感じている。

